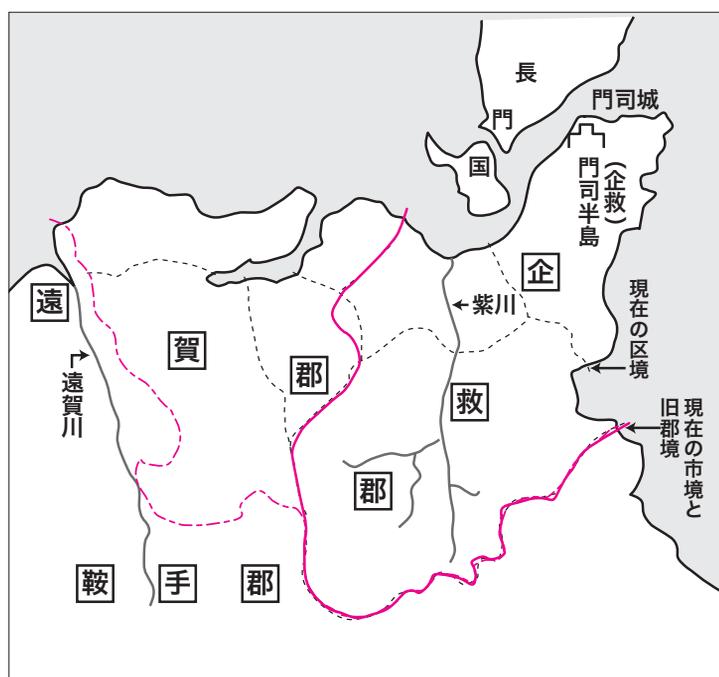


9. 戦国時代

応仁おうにんの乱の後、全国各地で領地を取り合う争いが起こり、下の者が上の者を倒して上に立つという「下剋上げこくじょう」の世が出現しました。その時期を戦国時代といいます。



○ 大友宗麟そうりん（義鎮よししげ）と毛利元就もとなりの門司城争奪合戦そうだつ



門司城跡の石碑が建つ古城山頂

門司城は、関門海峡を見下ろす古城山にありました。

毛利元就と大友宗麟は、同じ先祖である中原（藤原）ひろすえ 広季の子孫です。

宗麟は、豊後国大分（大分市）で生まれ、元就は、あきのくに 安芸国高田郡吉田村（広島県吉田町）に生まれました。

毛利元就は、本拠地の安芸に長門すおうと周防の両国を加えて、九州に勢力を伸ばそうとしていました。そのためきよてんの足場づくりの拠点となったのが、門司城でした。

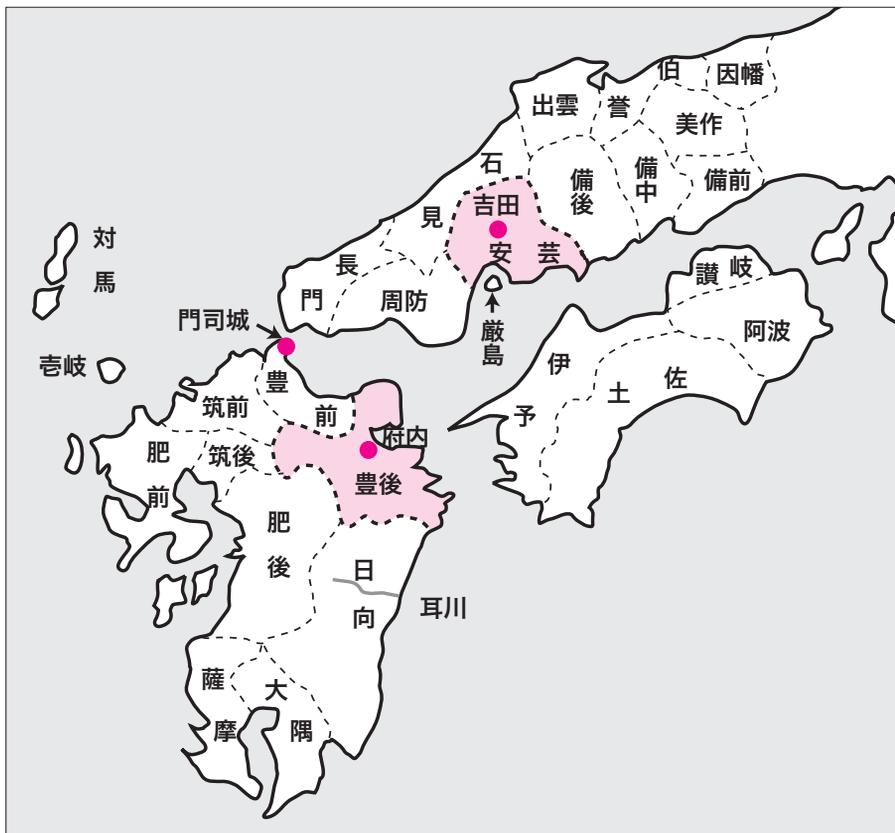




大友宗麟画像



毛利元就画像



宗麟と元就の本拠地及び門司城の位置

一方、大友宗麟は、豊前と筑前の両国に勢力を伸ばしていましたから、両氏は門司城の支配をめぐって、天文23(1554)年から永禄12(1569)年まで、門司城争奪合戦を展開したのでした。

最初の合戦は、天文23(1554)年の秋で、大友軍が数百の人数で守る門司城に、毛利軍2万余りの大軍が襲いかかったのです。

大友軍は敗退しました。

宗麟は、その年の10月中旬(今の暦では、11月下旬)に、門司城を奪い返そうとして、約2万の大軍を門司城攻略へと進撃させました。

大友軍は、小倉南区の曾根あたりで2軍を編成し、第1軍（8千人）は、足立山（小倉北区）の



門司城争奪合戦の時の大友軍の進攻・退却路

を城からと柳ヶ浦からはさみ討ちにしようと思勢を整えました。そして、万が一に備えて、赤間関からも援軍が海を渡れるように、壇の浦・前田の浜に兵船を並べました。

宗麟は、毛利軍の動きを見ながら軍を引き返させました。

永禄4（1561）年6月、宗麟は自ら3万を超える大軍を率いて、門司城攻略に出発しました。

門司城は、急斜面の地形に囲まれており、攻めるには難しく守るに易い城でしたから、大友軍は苦戦していました。

宗麟は、「城を守る者どもの肝を冷やす術は、大砲に限ろうぞ」と、使者を大分に送りました。そして、大分に滞在していたポルトガル船の船長に、大砲を使って門司城を砲撃するよう、伝えさせました。

西を通って柳ヶ浦へ出るコースをとりました。

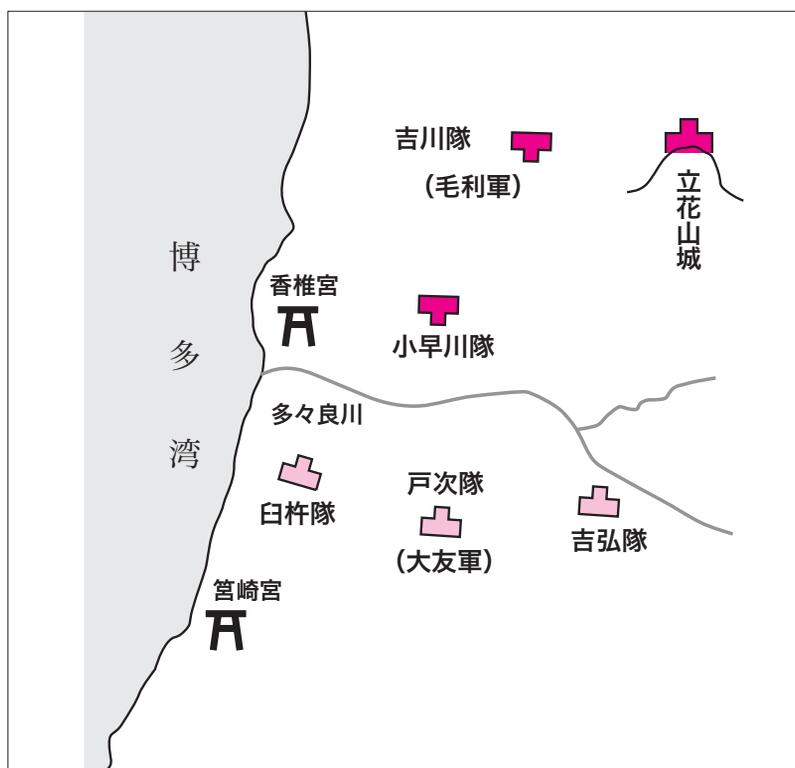
また、残りの第2軍は、周防灘の沿岸にそって門司城に向かったのです。つまり、大友軍がとった攻略法は、第1軍は大里を経て門司ヶ浜から城の正面を突き、第2軍は田野浦から城の背面を突くという策でした。

この作戦は成功し、毛利軍を門司城から撤退させることができました。

その後、弘治元（1555）年に、元就は門司城を取り返そうと試みますが失敗しました。しかし、弘治3（1557）年に、1万余りの兵で門司城を攻めた毛利軍は、激しい戦いの末に、これを取り返すことに成功しました。

元号が弘治から永禄に改まった翌2（1559）年9月、宗麟は門司城を奪い返すために兵を動かしました。

これに対して元就は、門司と小倉の間一帯に軍を上陸させ、門司城を攻める大友軍



多々良川合戦の部隊配置図

宗麟は、異国の船と人と大砲と弾丸と火薬を使って、世界初の艦砲射撃という戦術を考えついたのでした。

門司の田野浦沖に姿を現したポルトガル船から、砲弾が門司城の内と外に飛んできました。城内は大混乱におちいりました。しかし、ポルトガル船は、弾薬と砲弾を多く積んでいませんでしたから、大友軍は敗退をよぎなくされました。

その後も、両軍の間に戦いは続けられました。その中で、多々良川（福岡市東区を南から北へ流れて博多湾に注ぐ大河）をはさんでの戦いが、元就と宗麟の間で行われました。

大河をはさんでの戦いのため、に

らみ合いが続きました。

この時、大友氏に味方していた大内氏の一族が、山口を奪回しようとしている動きもあって、毛利軍は撤退しました。そして、大友軍が失地を回復する結果となりました。

その年12月、門司城からも毛利軍は退却すると、大友軍が入城しました。

こうして、両軍による門司城争奪合戦の幕は閉じられました。

<毛利家に伝わる「三矢の教え」のエピソード>

死期が近づいていた元就は、三人の息子呼び、一本ずつ矢を渡して、「折ってみよ」と言いました。三人は、たやすく矢を折りました。元就は、次に、三本の矢を一人ずつに渡して、「その三本の矢を束ねて折ってみよ。」と言いました。

三本の矢は折る事ができませんでした。

これは、『三人で力を合わせる事が大切である』と教えたものです。

しかし、史実ではありません。